

### 13) 地域医療支援歯科における訪問歯科診療への取り組みについて

○北條健太郎<sup>1</sup>, 山家 尚仁<sup>1</sup>, 佐藤 健太<sup>1</sup>, 保田 穰<sup>1</sup>  
小松 泰典<sup>2</sup>, 渡邊 崇<sup>1</sup>, 鈴木 史彦<sup>1</sup>, 清野 晃孝<sup>1,2</sup>  
佐々木重夫<sup>1</sup>, 瀬川 洋<sup>1</sup>, 杉田 俊博<sup>1,2</sup>  
(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科,  
奥羽大・大学院・総合診療歯科)

【緒言】奥羽大学歯学部附属病院では地域社会の健康増進ならびに福祉向上に貢献するため、平成28年4月に地域医療支援歯科を発足させた。当科の多様な業務の一つである訪問歯科診療の実態と今後の展望について報告した。

【方法】平成28年4月から平成30年9月までに訪問歯科診療を実施した年度毎の診療件数とその内容の内訳について調査した。

【結果】訪問先の施設数増加や訪問歯科診療の希望者の増加に伴い、平成28年度92件であった診療件数は、平成29年度177件、平成30年度4月から9月の半年間で429件と増加した。それらの施設で実施している治療内容の割合は、口腔ケア55%、義歯新製・修理・調整30%、齲蝕処置5%、歯周治療5%、摂食嚥下リハビリテーション1%、拔牙1%、その他3%であった。

施設では訪問歯科診療以外、介護保険での経口維持加算（ミールラウンド）や口腔衛生管理加算（食後の口腔ケア）にも協力している。また、地域中核病院との連携や歯科医師国家資格以外の専門資格取得者の確保、増員を目指すといった当科における今後の展望を提示した。

【考察】今後、脳血管疾患や認知症により通院が困難な患者の増加に伴う訪問歯科診療の増加が予想される。訪問歯科診療は外来診療とは異なり、緊急時の対応や本人、家族も含めた多職種による連携が必要となる。また、地域中核病院との連携により、急性期から慢性期、施設から在宅まで一連の流れに対応できるチーム作りも必要となる。それらの地域医療に貢献できるよう専門資格の取得や安全対策の向上を目指す必要性があることが示唆された。

【結語】発足から2年半が経過し、現在の当科による訪問歯科診療の実施内容および地域医療に対する展望を報告した。

### 14) 奥羽大学歯学部第2学年における解剖学小テストに関する学生の評価

○佐藤 知哉, 芹川 雅光, 宇佐美晶信  
(奥羽大・歯・生体構造学)

【目的】奥羽大学のカリキュラムにおいて、教養科目の学習を終えたばかりの第2学年の歯科医学に対するモチベーションや学習習慣には学生間でのばらつきが存在すると考えられる。平成29年度口腔解剖学分野の講義において成績評価の一部として毎回の講義直前に前回講義内容について小テストを実施した。5分間で5問のCBT形式の小テストを行い、成績が80%未満の場合再試験の対象とし、一度だけ再試験を行った。その際の成績は上限を80%とした。今回この小テストが学生の学習習慣に与えた影響を評価するとともに、学生の「小テスト」に対する評価をアンケートによって行った。

【方法】奥羽大学第2学年の学生全員に対して、通常の1日の学習時間について質問するとともに、毎週行われることになる小テストに対する学生からの評価をアンケート形式で集計した。アンケートはメールでの提出により行った。なお、アンケート前には講義時間内にアンケートの目的や方法について説明を行った。

【結果・考察】通常の学習習慣としては1日の学習が30分未満の者が約20%存在していた。これは入学前の学習習慣のみならず、入学後の教養系科目が多くを占める第1学年時に学習時間が減少している者も含まれると考えられる。学習時間の増加を強いられる小テストに対する学生の評価は「普通」「良い」「かなり良い」の評価が90%以上を占めており、学生にとっても学習時間の増加の必要性は認識しているものと考えられた。自由記載欄には他科目との関連で、1週間の小テスト数について不満はみられたが、復習の習慣が出来たなど概ね小テストに対する学生からの評価は良好であると考えられた。小テストの評価方法についても「普通」以上の評価が90%以上を占めていた。これらの結果より、専門科目が始まる第2学年において、小テストにより日常的に評価を行うことで一部の学生では学習習慣の改善が行われていると考えられた。